

会報

国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

第43号
2013年12月13日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局
千葉市中央区要町2-8 DC会館内
TEL 043-222-7207
nationwidemovement@yahoo.co.jp

10万筆署名を訴え 解雇・改憲に反撃を

1・22 最高裁署名提出行動へ

運動を一回り成長させた 解雇撤回・JR復帰署名

伊藤晃（呼びかけ人）

高裁署名の力

動労千葉・鉄建公団訴訟で9月25日、東京高裁が国鉄の不当労働行為を認めざるをえなかったことには、高裁への4万4千余に及ぶ署名の力も大いに働いていたと見てよいだろう。

訴訟は引き続き、解雇撤回・JR職場への復帰を目標に、最高裁で戦われる。国鉄闘争全国運動も心を新たに、最高裁



に向けて10万筆署名の呼びかけを發した。どうしてもこれを成

功させなければならぬ。4万4千人余の署名は、国鉄闘争全国運動を一回り成長させた。この多数の署名に、国鉄分割・民営化を認めず、20数年にわたって解雇撤回を要求し続けた闘争への共感があつたことはいつまでもない。1047名闘争は、いったんの敗北であきらめることなく、敗北の承認と妥協・和解への誘惑を退けて、自分たちの力によ

秘密保護法弾劾！

秘密保護法案の採決強行(12月6日)に対して、国会前には連日、数千人から数万人が結集し、動労千葉もかけつけて闘いました。「戦争国家のための秘密保護法」「治安維持法の復活反対」の強烈な危機感が首相官邸から国会、永田町まで包囲しました。出版関係の労働組合や日教組など多数の労働組合も結集しました。中曽根が国鉄分割・民営化と一体でスパイ防止法を狙ったことを考えても、引き続き秘密保護法反対の闘いを継続するとともに、戦争ができる国への飛躍をかけた改憲攻撃との闘いとして、国鉄闘争を闘おう。

国鉄改革法の本質を固守して原告の職場復帰を認めない反動性を持っていったにもかかわらず、この判決を知った労働者たちの間にある希望がよみがえったのではないだろうか。それは、労働運動はいまなお何事かをなしうる力を持っているという

希望を確信に

国鉄分割・民営化の真相を耳にする労働者たちは、そこでの国家的な労働行為と「解雇の自由」が自分たちの問題と同じだ、自分たちの問題の起点がここにある、と感ずるだろう。そ

(裏面に続く)

全国運動 呼びかけ人 中西五洲氏を追悼する

全日自労委員長として日雇労働者の組織化に尽力

国鉄闘争全国運動の呼びかけ人である中西五洲さんが去る11月16日、お亡くなりになられました。多くの労働運動関係者や生協運動関係者に見守られ、92

年の生涯を閉じられました。心より国鉄闘争全国運動への支援に

感謝し、氏の功績を讃えたいと思います。中西五洲さんは、全日本自由労働組合(全日自労)の委員長として、日雇労働者たちの失業対策事業の要求闘争で全国22万人の組織をつくりあげた類いまれな組織者でした。五洲さんは、兄の中西功さんの影響で運動に入り、「世の中を変えるには労働の現場を変え

ること」という兄の言葉通りに、上京して旋盤工になり法政大学の夜間部に通いました。しかし、「京浜労働者グループ」で活動していた他の兄たちとともに1943年に治安維持法で逮捕され獄中で敗戦を迎えます。農地解放運動、部落解放運動の強かった地元の松阪で1950年に失業対策事業に就労して200名の仲間と三重自

由労働組合を結成します。治安対策としての失対事業は、社会の底辺にある失業、半失業の労働者とレッドパージされた活動家の結合として全国で個別に巻き起こります。逮捕者272人という「松阪職安事件」が起きたのは1951年10月。「11月25日就労」を要求し、職安を占拠します。大弾圧を組合の団結で跳ね返し要求を実現。この闘いが全国に波及し、53年には全日自労の初代委員長に就任します。57年には「25日完全就労の労働協約」を県、市長会に結ばせ、

国は59年から22日就労を実施、その差3日分を県、市の独自負担とさせ、59年には「公務員並手当の労働協約」まで締結させます。要求実現のための夏、冬の県、市庁舎前座り込み、さらには「手当闘争」から「一律賃上げ闘争」の全国統一闘争へと発展します。

労働省を1000人規模で取り囲む行動力と組合の団結力を恐れた権力は何度も逮捕攻撃をかけたが、裁判では団結権を認めさせ公安条例違反は無罪をかちとっています。劉少奇の「大衆運動の法則」



援する会・東海

松阪の篠田山に失対事業で全日自労の仲間が開いた市営墓地の一角には「無名戦士の墓」が建立されています。多くの労働運動、部落解放運動の闘士とともに、永遠にその名が刻まれることでしょう。(動労千葉を支援する会・東海)

2014年2月16日(日)午後6時(開場5時30分)
すみだ産業会館8階サンライズホール
(JR錦糸町駅前の丸井錦糸町店8階)

2・16労働者集会

動労総連合・強制出向無効確認訴訟

2014年1月22日(水) 東京地裁527法廷
午前10時に地裁前に集合 ※午後から動労千葉鉄建公団訴訟の最高裁包囲行動と第1回署名提出行動

(表面からの続き)

れだけではない。そういう攻撃に反撃した労働者がいた！その力が実在した！これを知った労働者たちに、自分たちにもその力があるはずだ、自分たちもその力と一つになりたい、という希望が生まれてきほしきではないだろうか。

全国運動が呼びかけた署名運動は、この希望を広く労働者たちの中に呼び起こし、さらにそれを固い確信に高めていく努力の第一歩にほかならない。

労働者たちの間にいま怒りが満ちているとしても、それだけでは事態を変える力にはならない。経済が成長しさえすればみな豊かになるなんてまるでウソじゃないか、と誰もが感じていたとしても、怒りは事態を自分で打開できるという希望、自分たちの力への確信と結びついたとき、初めて持続的な行動に転化するだろう。

私たちは、そういう希望と確信が現実のものとなるはずだ、と信ずるがゆえに、署名運動を発起した。それが一つの実を結んだのだ。労働者みな苦しむ中で呼び起こされた1047名闘争への共感、いま大きなつながりの中に置かれた。

私たちは各処で作ってきた、いまも作りつつある運動は、それら一つひとつはまだ小さいとしても、いま大きな歴史的意味を持つ力を生み出しつつある。

6・29東京地裁判決がこの力を予感しての不安に押されたものだったとすれば、9・25判決は、現実のものとなりつつあるこの力がかちとったものなのだ。しかしこの力は、国鉄改革法そのものを粉砕するにはまだ

足りない。職場復帰は拒否されている。

署名運動の目標

そこで新たに最高裁に向けられる10万筆署名の目標は明らかだ。国鉄の不当労働行為認定の論理的帰結であるJR職場への復帰をかちとること。それへ向けて4万4千人余の署名はどのようにして集められたか。

私たちはいろいろな組合・組織の機関を通じてだけでなく、人ひと、労働者の一人ひとりを訪ね、話をし、呼びかけた。社会を動かすためにこれが必要だと自分が信ずるところを、自分の言葉で訴えた。私たちはこれをもう一度、もっと徹底してやり抜こう。

私たちの訴えは必ず人ひと、労働者の心に届く。この自信をもって、すべての職場を私たちの拠点にという国鉄闘争全国運動のスローガンと結びつけて、目標を達成しよう。

新潟

4.9和解をうち破る闘い

最高裁10万筆署名を訴えよう

新津車両製作所の外注化と闘う

JR東日本は新潟県の旧新津市(現新潟市秋葉区・写真)にある唯一の車両製作所の外注化を来年4月に強行するとしています。社員300人を全員出向、関連会社社員200人とあわせて再編成する大攻撃です。

JR社員にとっては、帰る職場のない片道切符であり、いずれ転籍は不可避という攻撃です。JRにとっては、分社化で車両製造コストを削減、国内と海外輸出で活路を見出すとして

いるのですが、大恐慌の深化とすでに仏独が先行している海外市場での展開は破綻が必至でしよう。

結局、JR労働者の賃下げと不安定雇用に道を開き、ひいては労働者全体への大攻撃となります。アベノミクスの中軸を担うこの攻撃は粉砕あるのみです。

私たちは、この分社化にいち早く「絶対反対」を掲げて闘っています。「共に闘う国労の会」の会員を先頭に地区あけての門前ビルまきを定期的に行い、JRと関連労働者に分社化反対をともに闘おうと呼びかけています。

会社は絨口令(かんこうれい)を敷いて、労働者の怒り抑え込もうとしています。が、「だまされた」「俺は出向にはいかな」と怒りの声が上がっています。みんなが「出向に行かない」と

声を上げればこの攻撃は頓挫するのです。労働者の怒りを抑え込み、攻撃の先兵となっている東労組を許さず、私たちは職場の労働者とながり、年末から来春にさらに闘いを攻勢的に展開します。

自治労単組から三木の署名届く

この闘いと一体で動労千葉の鉄建公団訴訟の最高裁10万筆署名を職場・街頭・労組オルグで取り組んでいます。現在は12月23日の「羽越線事故8周年弾劾闘争」のオルグの中で署名を訴えています。

高裁難波判決で「不採用基準」が不当労働行為であると認めさせた動労千葉の闘いをあらためて評価する声が上がっています。また、JR北海道の事故多発に際して、なぜあんなことになったのか原因を尋ねてくる場合が多く、討論となります。

特徴的には4・9政 治和解を是認した労組の中から最高裁署名に協力するところが出ています。11・3労働者集会後、三



木にしながら、大げさに言えば「15分間決戦」にうつって。何回も足を運ぶ。その繰り返しだ。労働者は忙しい。電話もかかってくるし、長い話はできない。私の以前の職場にも署名を持ち込んだ。

怒りとひとつに

市当局は9月上旬、「国保地区担当者制度」廃止を提案してきた。制度廃止＝全員解雇の攻撃だ。

その職場に署名用紙とリーフ人数分を持ち込み、全員に手渡した。私は、今度は説明する側ではなく、聞く役に回った。

羽越線事故8周年弾劾 新津車両製作所の子会社化反対！ 全解雇者と出向者をJRに戻せ12・23集会

12月23日(月) 14時から新潟市万代市民会館 (※13時から石宮公園に集合、デモ)

桁の署名が自治労傘下の労組から届けられました。定期的な職場ビル入れ、国労などがとれたかった不当労働行為を一番と高裁とともに認めさせた動労千葉の闘いが評価されたものと思います。

また、ある組合から昨年に続き、定期大会に招請され、来賓としてあいさつする場を与えてもらいました。ここでの議案書に「動労千葉を支援する会と連帯する中で、今日の新自由主義政策への転換が国鉄労働運動への攻撃に始まったことを確認、いまだ妥協せず闘ってきた国鉄争議団はついに裁判において国家による不当労働行為があったことを認めさせるところまで来

ました。これを支えるため、年2回の物資販売を支援し、開催される集会に参加しています」と動労千葉の闘いが紹介され、動労千葉の外注化阻止の闘いを教訓に自分たちの職場の外注化や非正規職化と闘っています。教育の現場からも署名も寄せられていて、直接私どもの事務所に届けてくれた組合役員もいます。総じて、この間の労組オルグの反応は好転しています。4・9政治和解がふりまく敗北主義を打ち破った全国運動の成果の表れというべきです。自信をもって職場、地域、街頭で最高裁署名を訴えていきたいと思

1人ずつリーフ手渡し依頼

職場で取り組んだ10万筆署名

神奈川

国鉄1047名解雇撤回10万筆署名に職場で取り組んだ。今回は心に期すものがあった。単に署名をとるだけではおもしろくない。この署名を展開

することで、職場のあり方を変えるきっかけにしたい、と思っ た。そして何より、国鉄分割・民営化は、「全員解雇」という希代の攻撃、空前の大量解雇である。絶対に許すことはできない。これを、なんとしても理

解してもらわねばならない。署名が集まるだけでは、あまりにもったいない。 目標は、自分のいる係の全員から署名をとることである。 最大の武器は、署名用紙そのものと『暴かれた真実』リーフ、そして私の説明である。1日目、リーフを手渡す。もちろん署名用紙と一緒に。 「署名してね。でもその前にリーフ読んでね」

「読むんですか?」

「もちろん」

「じゃあ……」というこ

になった。次の日、「読んだ?」

と聞くと「まだ」と答える。次の日は休み。5日以上たって

彼から署名用紙が返ってきた。彼はニヤッと笑って「署名しました。まあ、特に動労千葉を支持しているわけではないんですけど……」と言った。

「1日1〜3人あたりを目標

名をお願いするパターンで少しずつ増やしていった(結果は、係全体で7割を超えて署名)。

さらに範囲を広げて、同じ階の隣の係、その隣にも署名を持ち込む。絶対に回覧にしない。リーフそのものか、それをコピーしたもの渡す。国鉄分割・民営化が全員解雇の攻撃であり、労働組合解体の攻撃だということを1分間で説明する。

年配の労働者は「この闘争はまだ続いているんですね」と感慨にふけるように言いながら署名した。「え、26年も闘っているんですか?」と言って署名する人もいる。

「1日1〜3人あたりを目標

にしながら、大げさに言えば「15分間決戦」にうつって。何回も足を運ぶ。その繰り返しだ。労働者は忙しい。電話もかかってくるし、長い話はできない。私の以前の職場にも署名を持ち込んだ。

「なんで制度を廃止するの? 私たちのやっている仕事はジャマなの? 絶対に納得できない」

「当局は、私たちを人間として扱っていない」

本当に切実な訴えだ。本部執行部に対する痛烈な批判も出た。私が国鉄署名の用紙について改めて説明し、「これは全員解雇攻撃に対する闘いです」と言つと「私たちと同じね」と言っ

て、全員が家族の氏名も含めて署名してくれた。

国鉄闘争と自治体労働者の怒りとがひとつになった瞬間だった。この後、私は、彼女たちと昼休みを使った食事を数回持つことになった。

こうして約300人の自治体職場でなんと55筆の署名を集めた。この署名運動は、「本来の労働組合活動」である。労働組合は、絶対に立て直すことができる。国鉄闘争を通して、日本の労働者はへひとつになれ

る! このことを実感した。確信をもって進もう。(動労千葉を支援する会・横浜自治体労働者 庄山正)